

四、外之六戰ノ方針

(一) N-X 協調ヲ愈ニ緊密ニシテ各ニハ所期スル目的ヲ達成

ニ邁進セムコトヲ励マス。

(二) C-Z 対シテ蒋介石ノ下野ヲ勸告ス。

(三) E-F-T 等ニ對シテ大東亞新秩序ノ建設ニ協力セムコトヲ

五、經濟戰ノ方針

(一) A-D 連繫ヲ阻止スルニ於ケル封鎖ヲ急ム

(二) E-D-Q-F-T ヨリ、物資ノ獲得ニ力メ共ニ圍内ニ於ケル

輸送ノ安全ヲ圖ル。

(三) 國內生産力ノ回復殊ニ民需生産ニ注意シ、尙船船ノ

建造ヲ急ムコトヲ要ス。

六、思想戰ノ方針

(一) 對 D-X 協カシ、長期抗戰、無益ナルコト N 等ノ戦力ノ

強大ナルコトヲ宣傳ス。

總力戰研究所

(一) 対 A B、A 国内民ハラシテ 厭戰気分ヲ横溢セシムル如ク

宣傳ニシテ共ニ ~~...~~ A B 子民ニ対シテ N、強カタルヲ

認識セシメテ 在野ニ於テハ 敵性ヲ断念セシムルニ努メカク。

(三) 対 E 民ハラシテ N、政策ノ目的ハ 民族ノ自立ニ在リテ

認識セシメ N、物資取得ハ 片面ノ戦争ヲ處理上一切行ハス

得止、處置スルヲテ 理解セシム。高 E 等占領地内ニ在リテ N

子民ニ対シテハ 在野新秩序建設者トシテ、誇リト自重ヲ要

ス

(四) 対 C 之 抗戰最中 何等ノ 便益ナク C、ニヨリ C 全工、統一ニシ

テ C 之 幸福ヲ育ニシタル 旨ヲ C、ト協カシテ 信託ニ宣傳

ス

(五) 国内ニ対シテハ、対口戰果ノ大ナルトモ 子民一致ノ 協力ニヨリ、

結果ヲ事セムトテ 勸道ニ併セテモウ一息ノ 我慢ナシト

シテ 後強國ニシテ 在野新秩序建設ノ為、地ニ在リテ 強國

トラシム。

總力戰研究所

3. C. 第九期續留 終末作 昔末 喘ヲ保ツニ 迄ヤサントシテ 大改

勢ヲ 昭和七年十月末 情状ニ 於テ 主月 國ノ 執ルヘキ 終

夫 殿ニ 兵力 孫方 田吉 北方 孫 孫 殿ノ 終 始 方 在ハ 左ニ 依ルモノトス

而ハ 口カ 我國ニ 一ラ 領有シ 企畫 院 部長ノ 中西久夫

一、終日 孫ノ 目的 獨ニ 立セシメ 親 國 政 權ヲ 樹志ス

殿ニ 獲得セル 地域ハ 当初 在 青 國ノ 東 亞 共 榮 國ノ 全 地 域ニ 存ビ

タルヲ 以テ 青 國ハ 專ラ 戰 果ノ 充 實ニ 努メ 青 國ヲ 盟 主トスル

東 亞 共 存 共 榮ノ 實ヲ 以テ 爭カント 共ニ 好 極ヲ 捕 獲シテ 平 和

ノ 招 集 実 現ヲ 望 望シ 莫トス 此ヲ 獲 得シ 得ル 物ニ テ 口 口 口

ニ 指 導 方 針 切

一、青 國ハ 和 平ノ 希 望ヲ 有スレ 共ニ ソノ 時 期 到ル 迄ハ A Bニ

三、對シテハ 戰 争ヲ 繼 續スルモノトス

又、口ニ 對シテハ 口ノ 兵力ハ 殿ニ 大ニ 力ヲ 加レ 共ニ 殘 存 兵 力ノ 專 手 域

2. 口 兵 力ノ 衰 減ヲ 待ツ 及 兵 力ノ 衰 減ヲ 待ツ 及 兵 力ノ 衰 減ヲ 待ツ

總力戰研究所

3. D.C. = 対シテハ C. = 四半ニ其ノ余喘ヲ保ツニ迄ギサシテ以テ大改  
 勢ヲ行ヒ之ガ全滅ヲ旨ムモトスニカム  
 4. 既ニ占有セル南方北方諸区域ノ統治方針ハ左ニ依ルモトス  
 ① 日本 ② 中国 ③ 蒙古 ④ 朝鮮 ⑤ 南洋 ⑥ 北支 ⑦ 西支 ⑧ 東支 ⑨ 南支  
 ⑩ 北支 ⑪ 南支 ⑫ 東支 ⑬ 西支 ⑭ 北支 ⑮ 南支 ⑯ 東支 ⑰ 西支 ⑱ 北支 ⑲ 南支  
 ⑳ 東支 ㉑ 西支 ㉒ 北支 ㉓ 南支 ㉔ 東支 ㉕ 西支 ㉖ 北支 ㉗ 南支 ㉘ 東支 ㉙ 西支  
 ㉚ 北支 ㉛ 南支 ㉜ 東支 ㉝ 西支 ㉞ 北支 ㉟ 南支 ㊱ 東支 ㊲ 西支 ㊳ 北支 ㊴ 南支  
 ㊵ 東支 ㊶ 西支 ㊷ 北支 ㊸ 南支 ㊹ 東支 ㊺ 西支 ㊻ 北支 ㊼ 南支 ㊽ 東支 ㊾ 西支  
 ㊿ 北支 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

B、D 對其方針現狀保持不變

3、~~在軸中伴清國特ニメ、ト~~ 強化ニカム

4、C1、育成強化ヲ更ニ積極的ナラシメ、C2、~~壞域ヲ速クナラシム~~

四、武力戰指導方針ニ本ニ血ヲ付シテ以テ軍需ヲ削減シテ民需

一、對 A、B 増益高破壞ニカム

二、對 D 地理現狀維持下ニ現在以上ノ戰域拡大ヲ防止スルニ努メ

三、對 C2 方針ヲトシ

五、~~理想~~ 指導方針 對外貿易ヲ促進シテ

1、對内的ニ (三) (五) = 連ヘタル如ク 志氣昂揚ヲ旨ム

2、對外的ニ 任務ノ達成ニカム

1、F、T = 社ニシテ、独立ヲ許スコトヲ 恩恵ニ利用シ 民人ノ 安定

只、A = 社ニシテ、益々 氣運ヲ 濃化セシメ 和平ノ 促進ヲ 旨ム

八、I、G ハ 本國ヨリ 孤立セルヲ以テ 経済的 便益ノ 手段等ニヨリ

我 勢力ニ 隨ハレム

總力戰研究所

二 B に対シテ其ノ辱令ヲ離及セシメ之ヨリ抗戦不能ヲ放棄セシム

五、経済戦指導方針

1. 輸送特ニ船舶ノ大拡充ヲ着目シテ (白物支)

2. 西力系ハ短シテ終末ニ近クナリテ軍需ヲ削減シテ民需

ヲ増加スルモノトス

3. 占領地ニ対シテハ其學園及ノ趣旨ニ鑑ミ努メテ其需物資

ハ之ヲ供給スルモノトス

4. 平和立生事業ノ復興及保養ヲ對外貿易等ニ因リテ計画ヲ措

立スルモノトス

5. 占領地経済ノ開發ニ力ム

第九期演習終末作業書中ニ於テ我々意思ハ爾後ヲ依ツ

一、總力戰ノ指導方針

（一）昭和十七年十月末ノ情況ニ於テ  
（二）青島政府ノ執ルベキ總力戰方略  
協同關係ノ強化ニ努  
大英次官兼企畫院部長  
酒井 俊 彦

一、總力戰ノ目的

（一）N國が現在迄ニ獲得セル戰果ヲ維持拡張スルニ東亞共  
榮圖ニ在リテ新秩序ノ建設ヲ圖リ以テ敵性

諸國家ノ抗戰意思ヲ破壞放棄セシメテ速カニ平和  
ヲ招来スル期ス

（二）A Bニ對シテハ依然戰爭ヲ繼續シ敵戰力ノ衰減ヲ  
兼テCニ對シテハ反蔣勢力ヲ合作ニ伴リ徹底

的ニCヲ打倒シ、我々ヲ執ルDニ對シテハ現在以上更ニ後

總力戰研究所

極的ニ進出セド、又國以テ於ケル格戦意思ハ崩壊ス候ツ

ニ、然レテ戦ノ指導方針或ハ強化ニ對シテ、Gニ依ル反C、諸勢力

(一) 一級の方針 實現セシム。主ト協同シテCニ徹底的掃蕩ヲ

(二) X、Yニ對シテハ此ノ際N、X條約ニ依ル協同關係ノ強化ニ努

メ、大將ニ戰後ノ處理ニ伴共同ニテ指導的地位ヲ強化スル如ク

緊要ナル連絡ヲ回ル。大體命令ヲ完成近キトテ自覚セ

(三) 南方ニ對シテハ占領地域中ニ於ケル重要資源ノ開發ヲ促

進スルト共ニ、N國ニ對スル信頼ヲ強化スル如ク指導ス。

(四) 南洋南洋ニ對シテハ連カニQ方面ノ失地恢復ヲ認ム。P、E方

面ニ對シテハ新ナル政治體制建設工作ヲ進ムルト共ニ尙現

在ノ軍政ヲ繼續スルヲ務メタルヲ以テ、此ノ新機

(五) 北方ニ對シテハN、M、Cノ一體的結合關係ノ見地ヨリ將

來ニ於ケル政治的不安ヲ除去スル如ク指導シテ併セテ

同地域中ニ於ケル重要資源ノ開發ヲ回ル。福木凡占領

總力戰研究所



地域ハ将来Nノ領土ニ編入スル事定テ以テ指導ス  
 (一) C<sub>2</sub>ニ対シテハC<sub>1</sub>ノ育成強化ヲ場メC<sub>1</sub>ニ依ル反C<sub>2</sub>諸勢力  
 全統ノ合作ヲ實現セシメ、之ト協同シテC<sub>2</sub>ノ徹底的殲滅ヲ  
 回リ以テC<sub>2</sub>事變時期ノ目的達成ニ努ム  
 (二) 國內ニ対シテハ今日迄ニ挙げタル赫赫タル戦果ニ依リ  
 我が東亞新秩序建設ノ大使命ヲ完成近キトテトヲ自覚セ  
 シメ、故ト國民ノ精神ヲ鼓舞スルト共ニ出来得ル限り生  
 活必需品ノ供給ヲ回リ生活不安ノ解消ニ努ム  
 (三) 外交戰指導方針ヲ積極的ナル至高目標ニ從事ス  
 (四) 總理大臣ハ聲明ヲ發シ我が目的トスル東亞新秩序ノ  
 建設ハ概テ其ノ基礎ヲ確カスルヲ得タルヲ以テ、此ノ新秩  
 序ヲ妨害シ来ル敵性國ニ対シテハ此ノ強固ナル態勢  
 ヲ以テ徹底的ニ之ヲ打破スル決意ヲ有スルニ我ガ平  
 和の意思ニ志シテ平和の友好の關係ヲ締結セントス

總力戰研究所

(1) 此等ニ対シテハ如何ナル國ト云モ拒マホル旨中外ニ宣明ス  
 (2) Aニ対シテハ積極的ニ和平提議ヲ行ハズ、A側ノ提議ヲ  
 俟ツ  
 (3) Xニ対シテハ協同關係ヲ築シBノ戰意放棄ニ協カス  
 (4) 式力戰シテハ軍需破壊ニ依リ國民生計ヲ恢復シトス、協同  
 (5) Cニ對シテハ反蔣勢力トシテ合作大攻勢ヲ執ルニ決セシムル  
 (6) Dニ對シテハ現在ノ戰線拡大ヲ防止シ敵ノ戰力ノ自壞ヲ俟  
 五、經濟戰、情報戰、外交戰  
 (1) A、Bニ對シテハ軍事ヲ積極的ナル通商破壊ニ從事ス  
 四、思想戰、教育戰、減少ニ依リ民需生活ニ影響ス、治安  
 (1) 國政ニ對シテハ一線方針ニ述ベタル所ト同極  
 (2) Cニ對シテハ華僑勢力ヲ依リ統治地域ノ民衆ヲ動員シテ  
 A、Bノ壊滅ニ依リCノ戰力既ニ崩壊セル旨宣傳ス  
 (3) F、Yニ對シテハ從來ト同極

(三) Aニ対シテハA國内反戦機運ヲ利用シ和平運動ノ促進ヲ圖ル

(ホ) 一、Gニ対シテハA及B本國既ニ壊滅近キヲ以テ此ノ際X(Nヲ含ム)ニ協カスルノ外ナキ旨ノ宣傳工作ヲ徹底ス

(ニ) Bニ対シテハ通商破壊ニ依ル國内ノ動搖ヲ俟フト共ニ、屬領ニ反戦ノ本國高反傾向等ノ工作ヲB本國ニ反映セシムル

之類ハ國内力ノ充實ヲ期スル大東亞新秩序ノ建設ヲ妨

五、經濟戰ノ指導方針 國内動向ノ陣障ニ依リ

一、燃料、运力ノ積極的拡充ト利用ノ層々統制強化ヲ

二、軍需要求量ノ減少ニ伴ヒ民需生活必需品産業ノ刷新

三、抗戦ノ考慮スルニ依リ、R、T、U、V、W、X、Y、Z、AA、BB、CC、DD、EE、FF、GG、HH、II、JJ、KK、LL、MM、NN、OO、PP、QQ、RR、SS、TT、UU、VV、WW、XX、YY、ZZ、AAA、BBB、CCC、DDD、EEE、FFF、GGG、HHH、III、JJJ、KKK、LLL、MMM、NNN、OOO、PPP、QQQ、RRR、SSS、TTT、UUU、VVV、WWW、XXX、YYY、ZZZ、AAAA、BBBB、CCCC、DDDD、EEEE、FFFF、GGGG、HHHH、IIII、JJJJ、KKKK、LLLL、MMMM、NNNN、OOOO、PPPP、QQQQ、RRRR、SSSS、TTTT、UUUU、VVVV、WWWW、XXXX、YYYY、ZZZZ、AAAAA、BBBBB、CCCCC、DDDDD、EEEEE、FFFFFF、GGGGG、HHHHH、IIIII、JJJJJ、KKKKK、LLLLL、MMMMM、NNNNN、OOOOO、PPPPP、QQQQQ、RRRRR、SSSSS、TTTTT、UUUUU、VVVVV、WWWWW、XXXXX、YYYYY、ZZZZZ、AAAAA、BBBBB、CCCCC、DDDDD、EEEEE、FFFFFF、GGGGG、HHHHH、IIIII、JJJJJ、KKKKK、LLLLL、MMMMM、NNNNN、OOOOO、PPPPP、QQQQQ、RRRRR、SSSSS、TTTTT、UUUUU、VVVVV、WWWWW、XXXXX、YYYYY、ZZZZZ

(三) 占領地ニ対シ可及的生活物資ヲ供給シ民衆ノ獲得ニ努

力ス

(四) 占領地域中ノ資源開發ノ促進

總力戰研究所

十九期著習終末作冊及得ノカ一日標上及的土着氏ノ

昭和十七年七月末ノ情況ヲ承テ國ニモ將來ノ目標ヲ

青國ノ執心ハ本總力戰方針也

3. 北東亞ノ北東亞ノ極務大臣ヲ不任井ノ如ク吾國

4. 北東亞ノ北東亞ノ極務大臣ヲ不任井ノ如ク吾國

三、總力戰ノ目的

1. 青國ノ国力ヲ衰度ニ抑テ大東亞新秩序ノ建設ヲ妨

2. 富強ナル敵性諸國ノ勢力ヲ排除スルニ在リ其方向ハ北

2. 当面ノ主敵ハ國ヲ A、D、E、トシ B、C、~~南亞細亞~~、印チ

在力ヲ抑テ其ノ所シテ敵性ヲ排斥ス

3. 大東亞ノ範圍ハ N、M、C、ヲトシ R、T、以東、G (香港) 以

1. 北東亞經百八十度線以西ニ包含セズ地域ヲ新秩序ノ

二、總力戰ノ指導方針

1. C 事變ノ度迄ノ根本方針建設ニ在リ政府ヲ

2. 南方ニ対シテハ資源ヲ獲得シテカ一目標トシ、及以土著民ノ  
 宣撫懐柔ノ務ヲ要スル威力圧迫ヲ圖ルモ將來ノ目標ヲ  
 期シ、其ノ達成ニ努力スル事ト共ニ、色澤ヲ平和公理唱テ  
 3. 北方ハ北地力ヲ確作シ資源獲得主トシ、新秩序ヲ期シ  
 4. 武力ヲ用ヒテ北地力ヲ平和主義ヲ推進スル事ト共ニ、

三、總力戰態勢

2. 戦局ニ関シテ國民ノ振興回復ニ努力スル事ト共ニ、  
 將來ノ目標ヲ A. D. T. 諸般ノ政策ヲ其方向トシテ  
 1. 指導スル政府ヲ期スル事ト共ニ、

3. 東亞共栄圏ノ實現ニ努力スル事ト共ニ、

四、外交戰ノ指導方針

1. 國民政府ヲ育成強化シ、N. M. C. ノ結合ヲ東亞新秩序ノ基調  
 2. 産産改権ヲ期シテ武力ヲ強化スル事ト共ニ、政府ヲ育成  
 3. 和平改革ヲ期スル事ト共ニ、

總力戰研究所

山明境ヲ以テ第一ノ指導方針

3. X, D, A, B, X<sub>2</sub> 其地行して平和ノ根柢ヲ築キ其ノ下に秩序ニ

A 在りて自認スルヲ以テ X<sub>1</sub>ト共同シ 古界平和ノ提唱スル

為スルニ其條件ニ N, X, A, H 各自主権ニ新秩序ノ根柢

B<sub>1</sub> 互ニ承認シ B<sub>2</sub> 互ニ承認シ D<sub>1</sub> 印度持テ其ノ中心ニ

確立スルニ其方針

4. E, F, T, P, 東亞新秩序ノ國家ト爲ルニ其方針

五、武力ニ對シテ之ノ方針

1. A 對シテ政府ヲ行ハシムルニ政府ヨリニ思想政策ノ有效ナルニ

養目的ヲ以テ武力ニ對シテ強化ス

2. B, F, T, E, P, 對シテハ共同防衛ノ形式ヲ以テ其力ヲ配シ

C, Q, 互ニ對シテ巨額地ニ對シテハ其力ヲ常備セシム

七、對シテ A, B 對シテ平和成立ニ日ヲ以テ武力ニ對シテ緩ム

4. 對シテ O, R 中將來確立スルニ其地長ク改定スルニ平和成立ニ

總力戰研究所

六、新秩序の指導方針

1. 国内の

A. 官民一致の精神運動、善の成、協力一致の國難克服

の達成を善の成とする

B. 連立國民生活の充實を圖り、民力を涵養し、この國の是

理想を實現せしむ

C. 将来に對し、A. D. 方針の基礎を待たずして、急務を遂げしむ

2. 海外の

A. 東亞新秩序の諸民族に對し、其の理想を實現せしむるに努力す

の努力を要す

B. 世界の和平の達成に努力す

C. 世界の繁栄、發達に努力す

七、經濟政策の指導方針

1. 東亞共榮圈内、治世の開發に努力す。國民生活の充實を圖る

第2 元中三國の維持、獲得 = 要4

3 將來に對し、A、D 縣に據る、實力を増強し、總力戦

其の固より、1917. べき、總力戦方略

支那次官 倉澤 剛

第一總力戦の目的

一 總力戦の大理想は、中華の精神を基として大東亞新秩序の建設

ヲ推進スル爲に障害ヲ除クべし、敵性國タルA、B、D 及 C、E 勢力

ヲ東亞ヨリ驅逐スルヲ以テ目的トス

二 主敵性國ヲA、B、D、シ、副敵性國ヲB、C、E トス

三 併せて古領地、域ノ治安肅正ニ萬全ヲ期ス

第二總力戦ノ指導方針

一 主敵性國タルA 及 D に對シ、攻防兩面ニ亘り、戰力ヲ集

中ス、内々軍需ヲ充足ヲ爲難ヲ排シテ促進シ、百年持久

ノ態勢ヲ整へ、外々A、D に對シ、日攻撃基點ヲ奪取ス

總力戦研究所



機

第九期演習終末作業

密

昭和十七年十月末ノ情況ニ於テニキル地域及ビ  
青國ノ執ルベキ總力戰方略

文部次官推倉澤以テ剛

第一總力戰ノ目的

一、肇國ノ大理想タルハ統一ノ精神ニ基ツキ大東亞新秩序ノ建設  
ヲ推進スル爲メ障害トナルベキ敵性國タルA B D及ビC<sub>2</sub>勢力

ヲ東亞ヨリ驅逐スルヲ以テ目的トス

二、主敵性國ヲA Dトシ、副敵性國ヲB C<sub>2</sub>トス西相呼應シテ

三、併セテ占領地域ノ治安肅正ニ萬全ヲ期ス不徹底ナル

第二總力戰ノ指導方針

一、主敵性國タルA及Dニ對シテ攻防兩面ニ亘リ戰力ヲ集

中ス、内ハ軍需ノ充足ヲ萬難ヲ排シテ促進シ百年持久

六ノ態勢ヲ整正ヘ、外ハA Dノ對日攻撃基點ヲ奪取

總力戰研究所

シ、敵ヲシテ戰勝ノ希望ヲ棄テシムルニ努カム精神カヲ  
 二、北方ハR沿海州一圓ヨリ黑龍江西部ニ至ル地域及ビ  
 Wダツチハ一バル迄、南方ハ對D及ビ對G防備ニ必  
 要ナル戰略要點迄、更ニ作戰ヲ推進セシメ、以テ敵  
 七、ヲシテ大東亞地域ニ對スル進攻ノ餘地ヲカラスシム  
 三、占領地統治ニ就キテハ優秀ナル人材ヲ派シ嚴正  
 軍政ノ下善政ヲ施シ就中食糧ノ確保策ニ萬全  
 八、五期ス又生活改善ノ生産増進ヲ防グニモ右ノ立場ニ  
 四、外交ノ中樞トシテA、N同盟ヲ強化シ東西相呼應シテ  
 A、B、D打倒ノ目的達成ヲ期シ中余ニシテ不徹底ナル  
 九、和平ニ應ゼサルヤウ相互ニ確約スル如キ措置ニ出ツ  
 五、Cノ政府ヲ助成シテC、2ヨリノ投降者ヲ吸収セシメ漸  
 次Cノ全面和平ヲ招来セシムルニ努カム

六、國內厭戰思想ヲ取締リ嚴重ニシテ其ノ不慮ノ勃發  
 總力戰研究所

一、未然ニ防遏スルハ國ヨリノ民族傳統ノ精神力ヲ  
 最大限ニ日印揚シ一億一彈トシテ國難ニ殉セントスル  
 勇猛心ヲ發揮シテ困苦ヲ克服セシムベキ國內精神  
 動員ヲ行フ能ハズ限リテ考慮シ士氣ノ振作ニ努ムルヲ要ス  
 七、國民生活ノ窮迫ニ対シテハ一切ノ平和時的觀念ヲ超越  
 シテ國家ニ依ル生活保障ノ萬全策ヲ創造シ飽ク迄  
 難局ヲ突破セシムル如ク施策ス  
 八、軍需及生活必需ノ生産減退ヲ防グニモ右ノ立場ニ  
 立テテ非常手段ヲ考策スレバ之ガ維持ノ目途亦決  
 シテ無シトセズ  
 九、カクテ口内態執力ヲ強化シテ百年不屈ノ持久決心執力ヲ  
 堅持セバ青國ノ國際的地位ハ愈々向上ス決シテ輕々  
 ニ和平ヲ考慮スベカラズ  
 一〇、但シ國內態執力ヲ強化スル凡百ノ施策ニ於テハ富者

總力戰研究所

機密

第三重ク負者ニ輕クシ苟モ國民大衆ノ不滿不平ヲ苦心  
起セシメザルヲ要ス 未ダ此ノ狀ヲ青島國政府ノ  
一二南方資源ノ輸送方法ヲ成立ツヲ待テ生活必需品  
ノ増配等ヲ能ク限リ考慮シ士氣ノ振作ニ努ムルヲ要ス



總力學  
究所

機密

第九期演習終末作業

昭和十七年十月末の状況は、露國政府は、  
執心べき總力戰を断つて、

(1) 對C、ハ徹底企畫院部長大改修、  
對D、ハ徹底維持、  
對日、ハ徹底維持、  
對日、ハ徹底維持、

一總力戰自的

戰果、收拾維持ニ力大速ヤカニ大東亞新秩序

建設ノ目的、向ニ建設的力ニ進ムルニ在リ、  
ガ妨害ヲ依然行フ敵性諸國家ノ徹底的潰滅、

國手ハ工ハ大入サレド此ノ目的ヲ承認スルニ在リ、  
戰事拡大ノ必要ナキヲ以テ思想戰外交戰ノ相俟

戰事和平ノ工作ヲ進ムルニ在リ、  
最後、善後、  
要本

二、總力戰指導方針

(1) 對A、B戰ハ大東亞新秩序建設好善排惡ノ範圍以  
ニ於テ繼續スルモ、ソレ以上ニ出ズ

(2) 對C<sub>2</sub>ハ徹底做潰滅ヲ圖リ大攻勢ヲ出スC<sub>1</sub>強化育成

(3) 對D 戰果ノ維持、與戰域ノ擴大ハ努メテ防止ス

(4) 對南方諸域 對日信賴性ヲ增強ニ努ム

(5) 對北方 凡占領地ハ之ヲ領有シ將來 漏漏NMC

各地ニ對スル政治的不安、軍事的的不安ノ絶無ヲ期ス

對上其ニ資源ノ開發ヲ圖ル

國外ニ對シテハ所期ノ目的達成ニ近キニアルヲ徹底ニ周知セシ

メ士氣ノ鼓舞、國外態勢ノ堅持強化ヲ圖リ可能ノ

範圍迄テ物資ノ解放、生活不安ノ解消ヲ圖リ、戰爭

最後ノ五分向、擴張ヲ要求ス

三、外交戰指導方針 根據諸國之潰滅宣傳

諸敵性國對之思想戰、言、厭戰、氣運、醜狀、  
相俟、和平土作之活潑開始、土作促進

對BハXト連續策密化ニヨリBノ戰意拋棄ヲ圖  
對Aハ專、思想土作言、及我氣運醜狀ニ乘、

東亞新秩序ヲ承認セルハニ力カシ

六、對Dハ暫、多態、推移ニ任ス

四、武力戰指導方針 民需ヲ考慮シ軍物產業

對C<sub>2</sub> 政權、育成強化、及將軍閣、援助利用等、

在位之極度の潰滅ヲ圖ル

對D 戰争地域ノ拡大防止

對A、B 通商破壞ニ專、力ヲ注、ス

五、思想戰指導方針

國內ニ對シテハ最後ノ頑張りヲ要求シ士氣高昂ニ爲、

對C<sub>2</sub> A、B、D 接轉諸國ノ潰滅宣傳

C<sub>1</sub>ニ信頼スルハヤ旨ノ宣傳

對A 反戰氣運ノ促進 和平工作促進

對B VIG 對C Bト聯繫工作 Bノ衰退宣傳 對日協

力氣運ノ促進

第一總力戰自的

六經濟戰指導方針 (ラ其月國總力戰ノ見地

戰前ノ好轉ヲ觀存セ 民需ヲ考慮シ平和事業

ノ活働ノ余地ヲ認め 國民生活ノ安定確保、占領地

工作ニ考慮(上)トス 二道ヲテテトス

一 A、Bニ對シテハ 主トシテ 經濟戰ノ

ニヨルト共ニ C<sub>2</sub>ニ對シテ 徹底的宣傳

ヲ促進ス

總力戰研究所



機密

第九期演習終末作業方針

一、昭和十七年末日ノ状況ニ於テノ同盟先ノハ、  
青島國ノ採心(キ)總力戦ノ本質ヲ示シテ、

(企畫院總裁) 五言過敬ニシ

第一總力戦ノ目的

一、止鎗地(戦果)ヲ本國總力戦ノ見地

ヨリ夫々維持擴充スルト共ニ教性

國ノ戦意ヲ放棄セシムルニ努メ

迅速ニ結束ニ道ヲ示ストス

二、A(京)ニ對シテハ、主トシテ通商ノ研破壞

ニヨルト共ニC<sub>2</sub>ニ對シテ徹底的壞滅

三、ヲ促進ス

中二 總力我の指導方針

一、南方ニ対シテハ 治安協力、同盟先、Nへ、

輸送 確保ニ努ムルニ 諸民族ニ對

シテハ 統制思想 各方面より 治安

工作ヲ進メ 對N 依存性、信託性

ヲ強化セシム

(軍事)

二、D(R)ニ對シテハ 協同思想上、見地

ヨリ 治安協力ニ對シテハ 一掃スルニ

至ルニ 置キ 併セテ 統制問題

ヲ 解決スルニトス

之が爲 必要ナル R 地域ヲ 領有

スルニトス

三、Cノヲ更ニ 精進強化スルト共ニ 反特

軍勢ヲ利用シ以テノ壞滅ヲ図ルモノトス

四、A、Bニ對シテハ武力戰ヲ継続スルニ

A口内ニ於ケル反我氣運及工業等

ニ於ケル情勢ヲ利用シ戰意ヲ喪

失セシムルモノトス

五、N國內ニ對シテハ戰爭目的遂行迄

キヲ知采心セシムルニ最後ノ頑強ヲ

強調其物攻上ノ不安在迫ヲ除キ

國力<sup>スル</sup>維持培養及ニ努カシムルモノトス

第三、外交戰指導方針

一、N國ノ戦争ハ正義ノ戦ナリ。其ニ

新秩序ト世界平和トノ關係ヲ明ニ

シ、A、B、Dが戦争ヲ継続セザル限

リ更ニ我域拡大ノ意思ニ公キテ聲明ス

二、A、B、Dノ通商政策ヲ継続ス

三、Aニ對シテハ積極的和平交渉ヲ行ハズ

第五、思想戰

三、X國トノ連絡ヲ密ニシ、特ニBニ對シ

テ和平促進ヲ行ハシム

四、宣傳ハス。C一般國民ニ對シテハ

「Cノ侵略ヲ信スルハ」

五、A、B、Dノ國民ニ對シテハ「政府ノ不誠實

第四 武力戦

一、対C<sub>2</sub> "反々将運勢ヲ利用シ壞滅ス"

国ル

一、対D "現状維持ニ努メ戦域ヲ拡大セム"

一、対A・B "通商破壊ヲ継続ス"

第五 思想戦

一、対C<sub>2</sub> "対シテハ反々将運勢ノノ、戦果ヲ宣傳ス"

二、対A、B "国民ヲ呼ビカケ政府ト密商"

三、対C<sub>1</sub> "政府ヲ信託セシム"

セシム

三、I 方面 = 強カナル思想我ヲ  
展開シ細去及本國ニ對スル和ヲ  
運轉氣運ヲ醸成セシム

### 第六 經濟狀

一、國內的ニハ更ニ船舶ノ強化拡充ヲ  
図ルト共ニ物價的ノ不安ヲ除キ手札  
產出率ノ振興ヲ準備ヲ以テモトス

二、民衆ニ對スル在在ヲ除去ス

三、占領地同又元ヲ促進スルモノトス  
及 NMC 卜ノ交流

(3) 第九期演習後未作業排除に必要とした武力を依り復つ  
格的に敵軍に敗北十七年十月未情返に成らん

(4) 他種地並に本國の南に於て總力戰術略を講じ東亞國の強  
化を爲すモトトス

朝鮮總督 日定博雄

一 總力戰の目的  
敵性國 A B D の勢力を東亞國より排除スル共ニ C 2 ヲ徹  
底的ニ處理シ東亞新秩序を建設ヲ確立スルニ在リ尚  
進ニテ A B D 殊ニ A ヲシテ東亞ニ對スル意思ヲ消滅セシメ又  
D ヲシテ N ニ降伏セシムルニ在リ

三 總力戰態勢ノ進化  
二 總力戰ノ指導方針  
一 統一體制ノ進化ノ推進ヲ行フ即チ  
(1) A の回復ノ後ノ第一ニ備フベク軍備ヲ充實ニ努ム  
(2) D 徹底的打破ヲ行ヒ長期戰ノ態勢ニ入ラザル様措置ス  
ルモトトス

總力戰研究所

(3) Cの其ノ殘存ヲ強カニ排除シ必要アリカ武カニ依ル積ヲ  
極的殺滅ヲ計ルモ亦トス他リテハ進歩ヲ行フモトス

(4) E領地並ニM Cヲ通カレ一體的措施ヲ講ジ東亞圈ノ強  
化ヲ爲スモ亦トスルニテハ一層ノ士氣振作ニ努ム

(5) 古領地ニ於ケルA Bノ經濟思想ニ面ニ於テハ勢力ヲ排除シ  
ニ新秩序ヘハ協力ヲ爲サシムルモトスク措置ス

(6) Nノ條約ノ趣旨ヲ確保シ世界ニ新秩序建設ヲ計ラ  
其以テ諸國ノ備ニ着手スルニトシ久遠制トシ之ニ適宜ニ於ケル  
N國ノ一能ヲ發揮シ其ノ富ヲ増カシモトス

三 總カ戰態勢ノ進化

(1) 國內ニ在リテハ官民一致ノ体制ノ進化ノ推進ヲ行フ。即チ

國民組織ノ確立ヲ經トシテA Bトノ長期化ニ準スモトス。  
(2) 商工業對策・令釋對策等ノ強化ヲ行ヒD戰ニ對スル決

意ヲ且堅牢トスルモトス



機密

- (3) 武力戦ニ依リテハD戦ノ遂行ト共ニA軍ノ基地(東洋)ヲ確保ス尚Cと對スル情勢ニ依リテハ進十備ヲ行フモトス
- (4) 思想戦ハ今ニ至リテ不慮ヲ與セタルモ尚東亞新秩序ノ建設ハ未だ程ナシキヲ深固トシ一層ノ士氣振作ニ努ム
- (5) 外交ハN大條約ヲ基固トシA Bトノ和平ヲ考慮セシムニ付同一歩調ニ下ニ戰ヲ繼續スル如ク措置ス
- (6) 經濟施策ハ赤ニハ特ニ巨額地ノ活用ニ留意シ之ニ依リ共圏確立ノ強味ヲ發揮シ持久發展トシ之ニ現實ニ於ケルN國民ノ生活改善ノ趣ニ留意スルニ努ムルモトス

# 機密

機密

中江期滿、兩日終末作業

一、戦力、艦艇、七、八、九、十、月、末、現在、於、了

二、戦力、補給、四、五、六、七、八、九、十、月、末、現在、於、了

三、戦力、補給、四、五、六、七、八、九、十、月、末、現在、於、了

四、戦力、補給、四、五、六、七、八、九、十、月、末、現在、於、了

一、總力、戦、目的

一、針、大、東、亞、海、域、之、建設、工作、ヲ、進、歩、セ、シ、ム、ル、ト、共、ニ、速

カ、平、和、ヲ、行、ハ、シ、ス、ル、ニ、向、テ、進、歩、セ、シ、ム、ル、ト、共、ニ、速

一、總力、戦、目的、指、導、方、針

占、領、地、ノ、治、理、及、建設、工作、ヲ、進、歩、セ、シ、ム、ル、ト、共、ニ、速

軍、閥、ヲ、以、テ、解、下、シ、テ、來、ラ、シ、ム、ル、ト、共、ニ、速、ニ、進、歩、セ、シ、ム、ル、ト、共、ニ、速

期、戦、總、勢、ヲ、察、見、シ、テ、A、B、D、長、期、戦、争、ヲ、宣、告、シ、テ、進、歩、セ、シ、ム、ル、ト、共、ニ、速

三、戦、力、補、給、四、五、六、七、八、九、十、月、末、現在、於、了

總力戰研究所

行辨77112

一、武力戰指導方針

R 北海面土地 W 西方島嶼 攻果ヲ速カニ完全ニ之但

W 西方島嶼ハ現在進出程度トシ戰果ヲ確保ス

G 正Vノ敵潜水艇根據地ノ攻撃ヲ行フ殊ニG

ノ軍艦砲撃ヲ飛行基地ノ空襲ヲ行フ

一、外支戰指導方針

Xト共同ニテDニ和平ヲ提案ス

割讓 Dノ根據地ヲ認ムルト共ニDヲEトNト共同ニ對テA

B C 2 戰ニ參加セシム此ノ工作ト併行シ合謀ト共

同ニ對テA B 和平工作ヲ行フモ1ト共ニDカ軍艦ヲ

平ニ惹キ又條件ヲ擔負承諾セシムハ對テA B D 和平

工作又ハ對テA B 和平工作ヲ行フ

總力戰研究所

一、思想、戰術、指導方針

I G = 非獨立、不煽動、不暴行

N = 戰術目的、軍用新機、兵器、宣言云々

X = 非A本土作戦、行進中、N = 日海軍

ヲ宣言ス

一、Nの上、世、新機、宣言ヲ行フ

一、経済、政治、外交、軍事、共同、防衛

C = 政治、外交、軍事、共同、防衛

二、政治、外交、軍事、共同、防衛

物、政治、外交、軍事、共同、防衛

世界、平和、共同、防衛

N M C 飛、共同、防衛

共同、防衛、共同、防衛

共同、防衛、共同、防衛

共同、防衛、共同、防衛

總力戰研究所

第九期演習終末作業(公軍備ヲ維持ス)

三、總力戰 昭和十七年十月末狀況ニ於テ

四、以件ヲ青國ノ取ルニテ總力戰不略

高尾國内國亦件外務大臣 千葉市 併

一、總力戰ノ目的 總力戰ノ目的ニ於テ其ノ我權ヲ維持シ國民ノ

青國ノ存在ヲ確保ス及本邦並其學園ノ防衛ヲ圖ル

二、敵性國 (A B D) ノ敵性解決

三、總力戰格 著示針ハ本邦並其學園ノ防衛ヲ圖ルニ在リ

青國 A B D ニ對スル防勢ハ、轉移

世界平和提唱ニ依ル A B D トノ和平克復

N M C 飛出シヲ由テスル本邦並其學園ノ建設

四、本邦並其學園各民族ノ向上ヲ福利増進

青國ニ以件勢ノ平和化勢(一) 總力戰ノ民力培養

（ヨリ軍事上之必要）但し當分の軍備ヲ維持ス

三、總力戰體勢

國及體勢力、對シテ通商政策等、總力戰體勢力ヲ取ル

高度國際國家體勢力ヲ維持シテ、其體勢力ヲ維持ス

外交政策、他國人民力及、基本の國力、培養力ヲ重要トス

對シテ和平ニ終ラズ、限リ中共集力、自衛力ヲ國民ノ

（ヨリ）NXDノ自衛力、活用及自衛の精神、高揚ヲ國民

對外体勢力、活用及自衛の精神、高揚ヲ國民

NNDノ自衛力、活用及自衛の精神、高揚ヲ國民

自衛体勢力、活用及自衛の精神、高揚ヲ國民

和平力、活用及自衛の精神、高揚ヲ國民

支那人民力、活用及自衛の精神、高揚ヲ國民

四、式力戰體勢力、活用及自衛の精神、高揚ヲ國民

總力戰研究所

同圖以A B C 爲( ) 對N 之( )

✓ C 爲( ) 對( ) 及北阿( )

B 爲( ) 對( ) 及北阿( )

A 及B 之( ) 通商( ) 及北阿( )

A 之( ) 及( ) 及北阿( )

外交( ) 對( ) 及北阿( )

對D 和平( ) 及北阿( )

N X D 係( ) 北阿( )

年保( ) 及北阿( )

對( ) 及北阿( )

對( ) 及北阿( )

對( ) 及北阿( )

對( ) 及北阿( )

對( ) 及北阿( )

總力戰研究所





機密

第九期滿蒙終末作業

一、昭和十七年十月、情況ニ依テ

二、南滿蒙ノ親ルルニ終力ヲ方照

三、R方面(西端) (商工大臣) 野見山 勉

其基本方針、石油、漢業。

青島總力ヲハ破壊期ヨリ建設期ニシテ、上下ノ層奮闘シテ

残存敵性國ヲ一掃シ、大東亞ノ新秩序建設ニ努力ヲ集

中、トルモトス、打テ、我ニ協力セシム

以テ、終力ヲ目的

併テ、大東亞新秩序建設ヲ妨害スル残存敵性國ヲ徹底的ニ

一、排除スルニ在リ、体制ノ見備、學識ノ大理想ヲ實現シ、大

二、A、B、C日英敵性國ノ止メ、日本領ノ完成ヲ目途トシ、物心ニ

三、大東亞新秩序ノ更ニ、東亞工團ヲ含マ、結束ノ方向ニ

(1) 大東亞維持發展上ニ必要ナル軍備ノ充實

總力戰研究所

第二、指導方針

一、Cヲシテ我ニ屈服セシムルヲ指シ

二、南方諸域ノ開發ニ努力スルヲ指シ

三、東方方面(W西端ニ至ル)ニ對シテ國防備ニ遺憾ナキヲ期スルヲ指シ

四、A(B)ニ對シテ我ガ不効ノ態勢ヲ示シ大東亞ニ對シテ

五、I、Gニ對シテ我ニ協力セシムルヲ指シ

六、Hニ對シテ我ニ協力セシムルヲ指シ

七、Jニ對シテ我ニ協力セシムルヲ指シ

第三、總力戰態勢ノ強化ニ關スル方針

一、指導系統ナルノ體制ノ見備

二、軍備擴張ヲ指導スルニ足ル日本軍ノ完成ヲ目途トシ

三、如ク強靱ナル國防力充實ヲ圖ル

四、(1)大東亞維持發展上必要ナル軍備ノ充實

集中的

(2) 重工業、化學工業等高度工業產業ノ發展ヲ促進ス  
 (3) 科學技術ノ一般ノ振興  
 (4) 東亞及世界ノ貿易ノ振興  
 (5) 計畫經濟遂行ノ爲メ金産業機構ノ有機的整備  
 (6) 財政金融ノ計畫化  
 (7) 人口増加、体力、素質ノ向上  
 當面ノ措置トシテハ、(一) 占領地ノ行政、(二) 兵隊ノ生活力  
 (1) 民力ノ恢復、生産力ノ回復、(三) 民生ノ改善、(四) 衛生  
 (2) 物資ニ依ル犧牲者ノ救済  
 以上各項ノ基礎トシテ、健全ニテ旺盛ナル日本精神  
 ノ振興ヲ他邦ニ必要トスル能ク、(一) 戰後ノ艱難氣運ヲ他邦ニ  
 托シテ他邦ノ力ヲ得ス

一、對××之依り A B 關係化ヲ圖ル  
 二、物資ノ世界和平會議ニ於テハ、我々ノ要求

三、國外進勢ノ完備

1. 鐵路要域ヲ堅守ス。

2. 經濟要域ノ開發ハ重點的ニ行フ。

3. 情報宣傳網ハ特ニ A B D I G ニ於テ強化ス

4. 通商經濟ハ先ヅ東亞ヲ圍大然ル性近東、

アフリカ、南亞 A B 及ボス為内合ニ依リ G I ヲ

5. 東亞諸民統率（占領地ヲ改）ハ、我々ノ五防カ

二、充實ト諸民族福祉トヲ潤和セシムルヲ方針トス

活況ニ建設ヲシテ、

陸上重要點 W I J T G I E I P

中四、外交方針ノ指導方針

~~下中四~~ 和平

一、対ソ關係ニ依リ A B 關係化ヲ圖ル

二、何事ノ世界和平會議ニ於テハ、我々ノ東亞

同盟主権ノ承認、我々ノ軍備自主権ノ承認ヲ既

目下ノ

### 九五、武力狀

一、積極面  
A 西岸要地、ハトマ。尚協會ニ依リG、Iヲ

二、武力攻撃

二、防禦面  
福民族ヲシテ我々ノ真意ヲ了解

W I R T C I F I T I Q I E I P

(2) 陸上要害、W I T I 木 I 海

上要害ヲ防備ス

力立、思想狀

一、国内的、回復、充實

(1) 戦後、和平、親善、思想、發生せしむ

我々、戦後、混亂、陰謀、將來、発展、期す

(2) 建設、時期、大、前進、洋、外、自覚也

力、振、興、計画、大規模、行ふ

三、對外的、思想、系、科、老、源、地、北、中、心、也

(1) 東、亞、福、民、族、力、我々、真、意、了、解

せしむ、也、欽、仰、せしむ

二、(2) 在、界、初、卷、国、力、我々、不、動、玉、力、也

(1) 軍、隊、也、心、之、實、生、産、力、我々、共、同、力、也

要、一、般、民、衆、間、配、合、調、整、合、理、也

(2) 兵、隊、之、間、年、々、右、左、之、變、化、我々、共、同、力、也

力、我々、共、同、力、也、我々、共、同、力、也

第七、経済戦

一、経済力の回復、充実

(1) 戦時経済(特殊)より今後ノ計画経済へノ移行ノ為  
戦時ニ起ル混乱ヲ除去シ、将来ノ発展ヲ期ス

(2) Nヲ重工業、化学工業ノ中樞トス。之が為生産  
力拡充計画ヲ大規模ニ行フ。

(3) 右ニ対応シ、原料産源地トシテ、北中C、E、  
Q、Pノ開発ニ努メス

二、経済力の動員

(1) 軍備回復充実、生産力拡充、共栄圏帯  
要、一般民衆間ノ配合ヲ調整合理化ス。

(2) 労務ニ関シテハ右項ニ基キ配当ヲ行フト共ニ、働  
カザル者ハ食フハカラスノ精神ヲ強メ